



トラフグ (日本海・東シナ海・瀬戸内海系群)

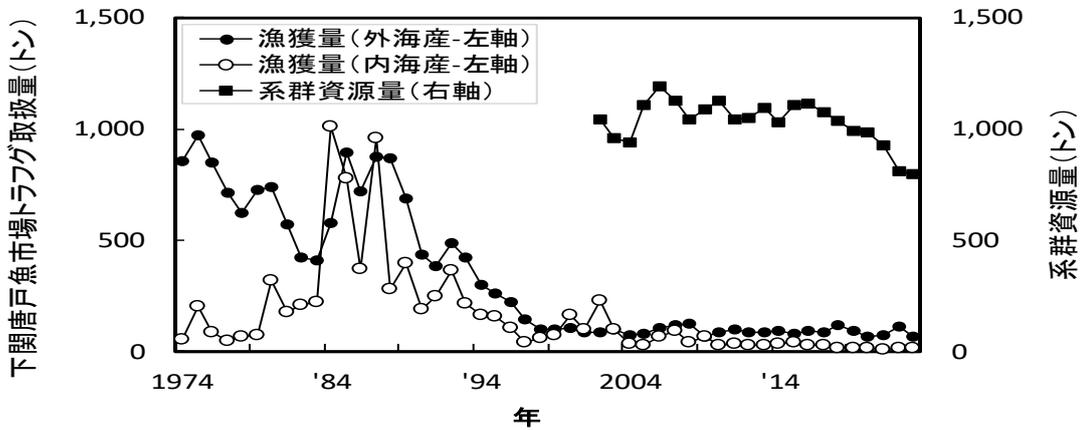


図 下関唐戸魚市場(株)取扱量 (同社月別魚種別取扱高表から積算した年度計) 及び日本海・東シナ海・瀬戸内海系群資源量 ((国) 水産研究・教育機構 資源評価報告書) の推移

【漁業】トラフグは回遊魚で、12~2月頃には日本海の九州・山口北西海域で主にふぐ延縄で、春期には各府県(日本海、瀬戸内海)の産卵場周辺で定置網、小型底びき網、ひっかけ釣等で漁獲される。

【漁獲量】本種は農林水産統計値のデータが存在しないため、漁獲量動向として下関唐戸魚市場(株)の取扱量を用いる。外海産(東シナ海・黄海・日本海産)、内海産(瀬戸内海、豊後水道、伊勢・三河湾産)ともに1980年代には最高1,000トン前後だったが、外海産は1998年以降100トン前後で、内海産は2004年以降100トン未満の低水準で推移している。2023年度は82トン(外海産69トン、内海産13トン)であった。水研機構が資源評価で集計した系群22府県漁獲量は2023年度135トン(暫定値)で、このうち山口県漁船による漁獲量は、46トン(日本海42トン、瀬戸内海4トン)である。

【資源状態】系群資源量は2002年漁期以降、2006年漁期1,189トンを最高に1,000トン前後で穏やかに変動していたが、2019年漁期に1,000トンを下回り、以降減少傾向が続いており、2022年漁期は813トン、2023年漁期は過去最低の794トンであった。2023年漁期親魚量534トン、最大持続生産量(MSY)を実現する漁獲圧の代替値としてF30%SPRが提案された。この漁獲圧で将来予測を行ったときに推定される平均親魚量(SB<sub>msy</sub>=577トン)を目標管理基準値、過去最低親魚量329トンを限界管理基準値、0トンを禁漁水準として提案されている。

トラフグ日本海・東シナ海・瀬戸内海系群の資源評価関連指標値等(単位:トン)

2023年漁期 漁獲量	最大持続生 産量(MSY)	2023年 親魚量	目標管理 基準値(案)	限界管理 基準値(案)	禁漁水準 (案)
135	191	534	577	329	0